

○ヒメヤナギラン日本に産す (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: *Epilobium latifolium* L. newly found in Japan

1986年の夏、北岳の山小屋を管理している深沢今朝光氏は近くの標高 2800 m あたりの砂礫の多い草地で美しいアカバナ属の植物を採集した。調べてみると *Epilobium latifolium* L. であり、これはシベリア、カムチャッカ、アラスカ、グリーンランドなど、アジア、アメリカ、ヨーロッパ大陸の北極圏に広く分布するもので、日本では初めてである。ヤナギランに似て花が大きいが丈は低いので綺麗な植物である。この様な美しいものがどうして今まで見付からなかったか不思議である。アラスカではそう珍しいものでなく目立つ植物なので、誰かが種子をまいたのでないかという恐れもないではないが、証明できないことだし、現在全く人の入らない所に生えている事は事実である。なお、アリューシャン列島のアッツ島の植物写真(杉山吉良, 北限の花 アッツ島再訪, 1979) にヒメヤナギランという和名がつけられているのを見つけた。この本の植物名はいいかげんな名がつけられているものが多いが、和名としては唯一のものなので、ヒメヤナギランの名を採用する。

*Epilobium latifolium* L.—Pref. Yamanashi, near Mt. Kitadake, in herbages on stony places at altitude of 2800 m (K. Fukazawa, Aug. 1986, TI).

(東京大学 理学部附属植物園)



図 1. ヒメヤナギラン *Epilobium latifolium* L. (深沢今朝光氏 撮影).